

【外国人材入国早期再開についての要望】

2022年2月1日

外国人技能実習生、特定技能外国人(以下「外国人材」といいます。)につきまして、COVID-19 感染蔓延防止水際対策により、昨年1月14日午前0時以降全ての外国人の新規入国が停止されていたところ、昨年11月8日に入国が再開されましたが、オミクロン株の感染拡大により、本年1月14日より、外国人材の入国が停止されました。

この度の停止措置は、本年2月28日までとされておりませんが、入国再開を心待ちにしていた外国人材の失望は大きく、来日を諦める者も出てきていると聞きます。

来日を希望し教育を受けているアジア各国の若い外国人材は、訪日の見込みが立たない状況のまま待機状態を強いられておりますので、先行き不透明な状態に限界を感じ、他国への流出傾向が表れてきています。

日本は東南アジアの若者たちにとってなお憧れの国であります。現地の教育機関等が日本行きを希望する人材を募集しても人数が集まらないような状況になってしまっており、最近では、規制を緩和したドイツが自動車工場の人員獲得に積極的で、若い人材が欧州に流れていこうとしているとの報告もあります。

我が国の国力維持と将来の社会発展のためには、我が国が培ってきた技術力を継承することは必須であるところ、労働力人口の減少が自明である今、これを継承する人材が不足するため、外国人材の力を借りざるを得ないことは現状の共通認識です。

コロナ禍において日本人の離職者も多く発生し、特定分野における人員不足を充足するとの期待もありましたが、結果的には充足されず、外国人材を期待する声は益々高まっています。

アフターコロナを見据えた外国人材の獲得競争が今まさに始まっているところ、入国停止措置の継続は、本当に必要な人材を得る手段を失うことにつながりかねず、極めて憂慮すべき状況であると考えます。

このような状況に対し、私共は外国人材を支援する監理団体の立場から、コロナ禍により収縮した社会を再び活性化させ、外国人材とともに幸福を実現できる社会を築くため、一刻も早く入国停止措置を解除し、万全の対策とともに入国を再開していただくことを強く要望いたします。

COVID-19 オミクロン株に対しても、マスク着用、消毒、密の回避といった感染蔓延対策を万全にし、入国前の検査、入国後の待機と検査を実施することで、リスクは完全に消失しないとはいえ、水際対策としては最大限有効な手立てがなされることが考えられます。

厳格なルールを徹底して守ることが、海外からの感染を防止し得る有効な策となりますので、かかる対策を適正に実行し得る能力を有する機関を活用いただくことで、安定的で最大限安全な入国再開が実現し得るものと考えております。

上危機的状況と、解決の糸口が存在すると認識し得る現状を踏まえ鑑みれば、限定的、段階的であっても、可及的速やかに入国再開の措置をお取りいただくべきと、意見申し上げます。

以上。